

講義名	スポーツ科学演習 A (ゴルフ)			授業形態	
担当教員	坂井 隆秀	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 3 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生
				ナンバリング・コード	SP0130

主題と概要

ゴルフは、手軽に行うことの出来るスポーツとして以前とは異なり環境が整備されてきた。そのため性別年代を問わず広く楽しめる生涯スポーツのひとつとして捉えられている。しかし皆が気持ちよくゴルフを楽しむためには、技術の習得のみならず、ルール・マナーを守ることにより、お互いが気持ちよくプレーする事や、事故などのトラブルを回避することも学ばなければならない。本授業では、ゴルフの技術、ルール、マナーなど全般的な事を理解する。そして実践のために必要なプレーヤーとして正しい知識の習得を目的とする。

到達目標

1. 「健康」獲得の方法を修得できるようになる。
2. 歴史やルール、基礎技術を理解し、説明できるようになる。
3. 基礎技術を修得し、生涯にわたるスポーツ実践の礎とすることができるようになる。

提出課題

基本的なクラブのスイング方法について理解し、習得しているかレポートの提出を課します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出された課題・レポートに対してコメントをつけて返却します。

評価の基準

- * 授業実施時間数の 4 回以上欠席したものは単位を認定しない。
- * 授業中の評価：受講態度・実技点など・・・ 8 0 %
- * 期末期の評価：レポート提出・・・ 2 0 %

履修にあたっての注意・助言他

ゴルフ初心者の方を対象に授業を進めていきます。参加者により授業内容を変更する場合があります。授業前・後は必ずマスクを着用することとし、授業中については教員の指示に従うこと。

教科書

.使用しない。

参考図書

その他

授業計画

- | | | |
|---------|---------|--------------------|
| 第 1 回 | ガイダンス | 本授業の目的、進め方、評価等について |
| 第 2 回 | スイングの基本 | クラブを正しく握る |
| 第 3 回 | スイングの基本 | 正しく立つ方法 |
| 第 4 回 | アイアンの基本 | ミドルアイアンの実践 |
| 第 5 回 | アイアンの基本 | ショートアイアンの実践 |
| 第 6 回 | アイアンの基本 | ロングアイアンの実践 |
| 第 7 回 | 講義 | 映像を用い、様々な練習方法を学習する |
| 第 8 回 | ウッドの基本 | 1) 実践 |
| 第 9 回 | ウッドの基本 | フェアウェーウッドの実践 |
| 第 1 0 回 | ウェッジの基本 | チップウェッジの実践 |
| 第 1 1 回 | ウェッジの基本 | アプローチウェッジの実践 |
| 第 1 2 回 | ウェッジの基本 | サンドウェッジの実践 |
| 第 1 3 回 | パットの基本 | パターのグリップとアドレス |
| 第 1 4 回 | パットの基本 | パットの練習 |
| 第 1 5 回 | まとめ | |

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	オ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L 型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

本学では、学期上、2 単位を取得するためには、1 5 回の授業と、1 回の授業に対して 4 時間の予習・復習等の教室外学習が必要であるとされている。紳士、淑女のスポーツとされる「ゴルフ」に触れるにあたり、ルールやマナーについて事前に理解を深めておくと共に、授業計画に従って、実施内容の技術をインターネット等を活用して調べておくこと。また、技術は一度の練習で身につくものではないので、毎授業後、繰り返し反復練習をすること。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目を履修し、目標を達成することで、本学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力の 5 項目および、健康スポーツ科学のキャリアラムポリシーへ貢献することができる。業中や帰国してスポーツ実践へ取り組みの中で、明るく元気な、どのような場所でも物怖しすることなく、誰とでもしっかり言葉を交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜く力、つまり「ネアカ」のびのび「へこたれず」の精神を育むことができる。また、問題点やその要因を発見し、自らが進んで取り組めるようになる。そして、他者に働きかけ、協力して課題へ取り組みることにより、円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。生涯にわたってスポーツと関わったり、健康の維持・増進に努めたりすることができるような知識を得て、理解することができる。以上は、全学部・学科の所属学生へ共通している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考